

～ パパ家事／実態調査 ～

『アラ30男性、は家事に積極的で「子どもも一緒に」志向
家族みんなで取り組む家事スタイルが広がる

積水ハウス 総合住宅研究所は、かねてより「男性の家事参加（パパ家事）」のあり方に着目し、さまざまな調査・研究を続けています。その一環として、子どものいるフルタイム勤務の既婚男性（20～60代／全国）1886人を対象にインターネットで「家事参加に関するアンケート調査」を実施しました。

世代によって家事への取り組み方や意識も異なり、特に25～34歳（アラ30）の男性は他世代平均と比べ積極的に家事を行っていることがわかりました。家族の家事への関わり方や暮らしの営みについて一人ひとりが考え、より豊かな暮らしづくりのきっかけとなるよう、広く調査結果を公表いたします。

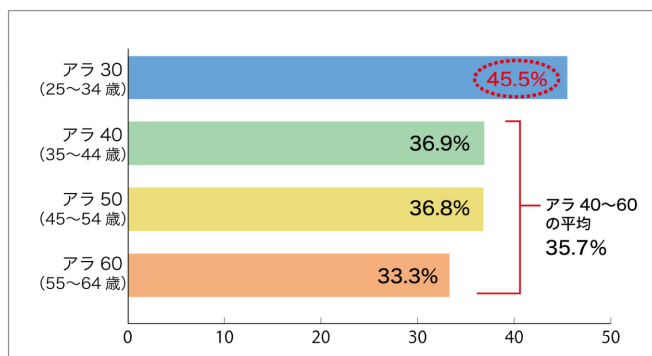
- 1) 子どものいる男性のうち、『25～34歳（アラ30）男性、の家事実施率は50%近く、他世代平均より約10ポイント高い
- 2) 子どものいる男性の定番家事はゴミ出し、風呂掃除、食器洗い、経験が必要な技能家事は妻が頼り
- 3) 子どものいる男性の家事積極派の約70%は、「子どもも家事に参加させたい」
- 4) 「妻に自分の頑張りをわかってほしい」、家事を頑張る男性の思い

1) 子どものいる男性のうち、『25～34歳（アラ30）男性、の家事実施率は50%近く、他世代平均より約10ポイント高い

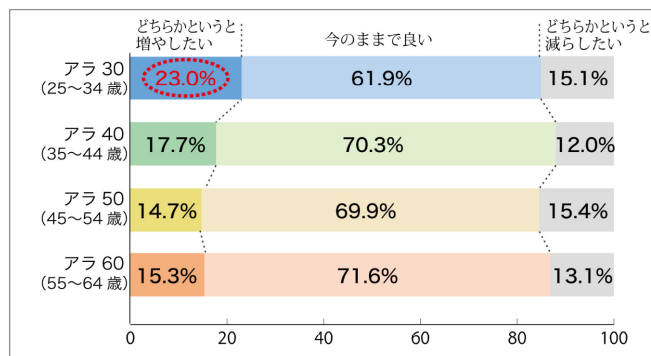
三大家事（炊事・洗濯・掃除に関する15項目）について「自分が行う」と答えた男性を見ると、25～34歳（アラ30）で50%近くにのぼり、35～44歳（アラ40）・45～54歳（アラ50）・55～64歳（アラ60）と大きな差が表れました。アラ30世代は他世代平均より約10ポイント高く、家事を積極的に取り組んでいることがわかります。【グラフ1】

また、家事全般についての「今後、希望する実施頻度」の調査においても25～34歳（アラ30）の男性は前向きです。「今より増やしたい」との意向を持つ人が他世代より多く、23%にのびます。【グラフ2】

【グラフ1】 子どものいる男性の家事実施率 【単位：%】



【グラフ2】 今後の家事実施の意向 【単位：%】



【本件についてのお問合せ】

積水ハウス株式会社 広報部

(大阪) TEL 06-6440-3021

(東京) TEL 03-5575-1740

(本社) 大阪市北区大淀中1-1-88 梅田スカイビル タワーイースト

2) 子どものいる男性の定番家事はゴミ出し、風呂掃除、食器洗い、経験が必要な技能家事は妻が頼り

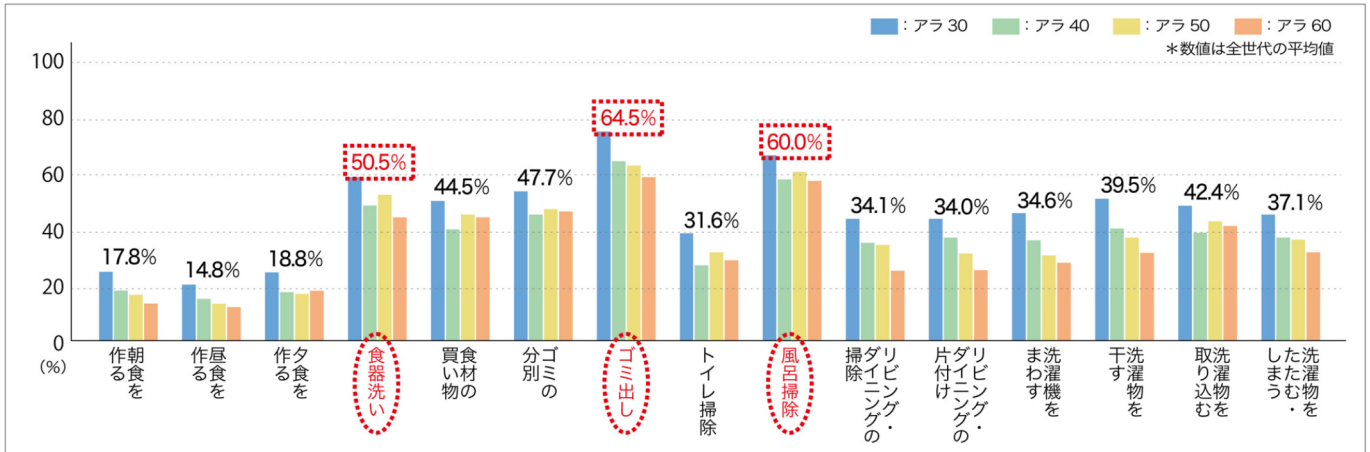
子どものいる男性が自分で行う具体的な家事では、「ゴミ出し」「風呂掃除」「食器洗い」がトップ3にあげられました。【グラフ3】

これらの家事は、手間はかかりますが特別な技術や経験をあまり必要としないのが特徴の「労力家事」といえます。食事作りなどの「技能家事」は、妻に頼っているのが実情のようです。【グラフ4】

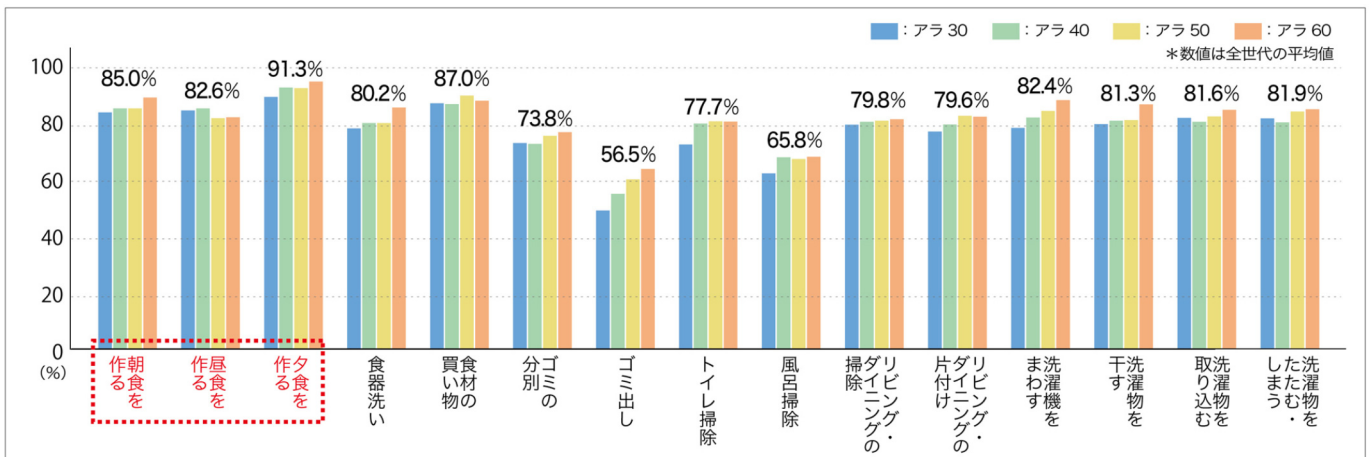
また、具体的に行う家事内容でも25~34歳（アラ30）男性の積極性は顕著で、15項目すべてで実施率がトップです。全体的に若い男性ほど家事を行っている人が多いという特徴が表れています。

【グラフ3】

【グラフ3】 自分(男性)が行う家事の内容



【グラフ4】 配偶者(妻)が行う家事の内容

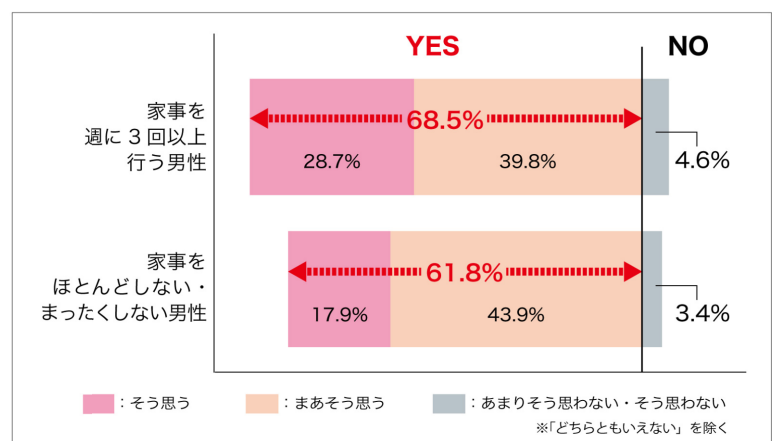


3) 子どものいる男性の家事積極派の約70%は、「子どもも家事に参加させたい」

「家事を週に3回以上行う」という積極派の男性の68.5%が「子どもも家事に参加させたい」と考えているのに対し、「家事をほとんどしない・まったくしない」と答えた男性は61.8%と、意識の違いが表れました。【グラフ5】

子どものいる男性の家事積極派（週3回以上家事実施者）は、家事を単なる作業としてではなく「家族で一緒に暮らす上で当たり前のこと」「わが家での子育ての一環」として捉えているともいえるのではないのでしょうか。

【グラフ5】 子どもも家事に参加させたい



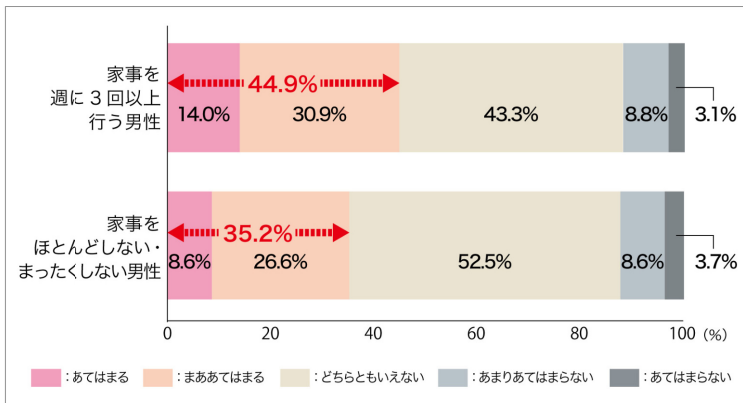
4) 「妻に自分の頑張りをわかってほしい」、家事を頑張る男性の思い

家事積極派の男性には、もうひとつ大きな特徴が見られました。それは「頑張っていることを妻にわかってほしい」という思いを強くもっていること。家事積極派の男性では44.9%、月1回未満の家事をほとんどしない・まったくしない男性では35.2%と、約10ポイントの差がついています。【グラフ6】

頑張る男性ほど、承認欲求が強まる傾向にあるようですが、これは男性に限ったことではないといえるでしょう。

「日常生活の中での頑張りをわかってもらえる喜び」や「家事の大変さ」を男性が身をもって感じれば、日頃の妻への感謝の気持ちも高まり、何気ない子どもの頑張りに気づくことも増えるのではないのでしょうか。

【グラフ6】 妻には自分の頑張りをわかってほしい



<全体考察>

今回の調査では、若年層（アラ30）の男性ほど家事への取り組みが積極的なことがわかり、家庭内での男女の役割の捉え方が変わってきているのが顕著です。

実はこの傾向は、教育環境の変化も大きく影響していると考えられます。1993年に中学校、1994年に高校で男女ともに家庭科の授業を履修するようになり、それ以降の男子が今ちょうどアラ30より若年層に該当します。今後はますます家事を行う男性が増え、`家事=家族みんなの役割、へと変わっていくと予測されます。

積水ハウスでは今回の調査を含め、以前より取り組んでいる生活研究・家族研究をベースに、いち早く「男性の家事参加（パパ家事）」「家族みんなの家事参加」をサポートする住まいづくりに着手。家族の誰もが家事を行いやすい住まいの工夫を提案しています。`家事を通して家族のコミュニケーションが豊かになり、絆が深まっていく、ことも、住まいの大切な役割と考えています。

【住まいづくりの提案例】



家族みんなで料理や後片付けのしやすいセパレートキッチン



「洗う・干す・仕舞う」がスムーズに行える洗濯専用室

<主な調査実施項目>

- ・自分（男性）の家事頻度、家事内容について
- ・親による家事サポート頻度と内容について
- ・今後の家事への取り組みについて
- ・家事代行サービスについて
- ・子育てについて
- ・配偶者の家事頻度、家事内容について
- ・家族で取り組む家事について
- ・休日の家事について
- ・デジタル家事について
- ・自宅でのデスクワークについて

<調査概要>

調査概要	
調査主体	積水ハウス 総合住宅研究所
調査名	「積水ハウス 家事参加についてのアンケート調査」
調査対象	子どものいる25～64歳のフルタイム勤務の既婚男性（*）
サンプル数	1866
調査手法	インターネット
調査エリア	全国
調査実施日	2017年1月31日～2月15日

* 各世代ごとに妻の就業形態が均等になるように設定

ここから、住まいと暮らしの未来がはじまる

積水ハウス 総合住宅研究所

<http://www.sekisuihouse.com/support/sup01.html>

積水ハウスは1990年に「総合住宅研究所」（京都府木津川市）を開設。住まいづくりに関するハード・ソフト両分野の研究開発を行っています。

研究所内にある「納得工房」は、住まいについて体験・学習できる施設として、大阪駅前「グランフロント大阪」内の「住ムフムラボ」は、生活者のニーズに関する情報発信拠点、生活者などとの共創研究開発拠点として、共に多数の方に来場いただいています。



総合住宅研究所